都市環境の変化が生活行動におよぼす影響

広島大学　正　員　○今田寛典
広島大学　学生員　髙橋誠治
広島大学　学生員　周藤浩司
広島大学　正　員　門田博知

1　はじめに

最近、イギリスのＴＳＵを中心に交通行動に関する様々な研究がなされてきている。これらの研究の多くは交通行動を様々な生活行動より派生したものとして捉えようとしており、人々の生活行動時間を詳細に調査し、個々の生活行動に費やされる時間の変動を分析している。この行動時間は行動日誌や、面接等で調査されている場合が多い。

本研究は、生活環境、特に都市環境の変化が人々の生活行動にどのような影響をおよぼすのかを明らかにするため、広島大学のキャンパス移転を例にとって調査し、その影響を明らかにする。環境変化が生活行動へ及ぼす影響を検討している従来の研究では、複数地域での行動の比較を行っているものが多い。本研究では、環境の変化を直接的に体験した人を対象とし、変化の前と後の生活行動について調査をした。

2　生活行動調査の概要

１日の24時間が様々な生活行動にどのように費やされているのかを明らかにするため、生活行動調査を行った。環境変化を直接的に被る人を調査対象とするため、調査は移転前の６月、移転直後の11月初旬、移転後３、４カ月後の２月の３時点で行った。調査は土木の２年生を対象とした。調査項目は個人属性と、様々な行動に費やされる時間である。図－１には生活行動を調べるための日誌形式の調査票を示す。行動を調査した日は、３時点とも日，月曜日の連続２日間であった。調査できた学生は、１回目50名、２回目、３回目はともに49名であった。また、調査をした日はいずれの日も晴れか雲りであった。

3　調査データの整理

行動票には行動の種類、移動手段、場所、時間等が記入されているが，かなりの行動が重複して記入されているため，各行動に優先順位を付け、データを整理した。そして、図－１に示されている行動の分類に従って費やされた時間を集計した。

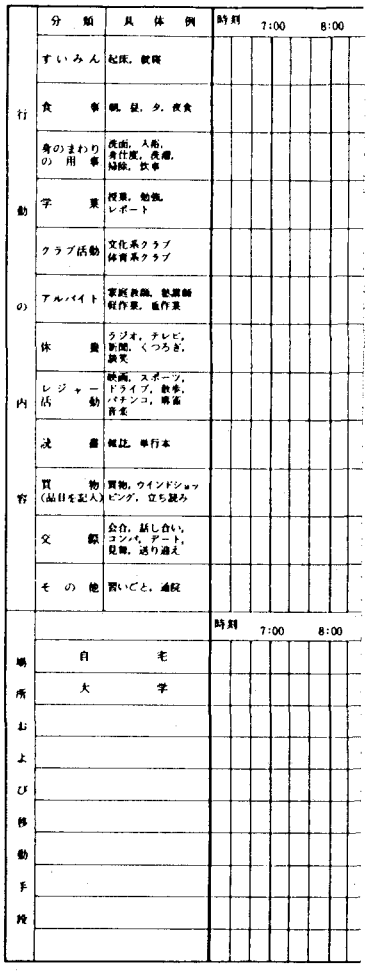
本調査で行った分析の種類は非常に多いが、概要集のスペースの都合上フェースシートから得られた情報に関する報告、生活行動の曜日変動に関する報告は省略する。

4　移転に伴う学生の生活行動時間の変化

本報告では月曜日の生活行動時間の変化についてのみ述べる。

図－２～14に各行動の平均時間を居住地別に分単位で示す。なお、各々の行動、例えば食事は１日の間で複数回行われるので、分析では複数回の行動の全時間を合計したものを用いて、各々の行動に費やされた時間として取り扱った。なお、全活動時間は24時間より睡眠時間を差し引いた時間として定義している。

まず、大きな変化がみられた行動は学業、サークル、アルバイト、レジャー、交通等の各時間であった。これらの行動の中で学業はカリ



図－１　行動調査の日誌形式

キュラムの影響を大きく受けており、都市環境の変化による直接的な影響を受けているとは言えない。しかし、その他の4行動は都市環境の変化の影響を確実に受けている。

サークル活動は主に広島のキャンパスでなされているため、活動時間は減少している。アルバイト時間の減少は東広島市内でのバイト先が非常に少ないためである。逆に、増加したものはレジャーに費やす活動時間と交通時間である。すなわち、交通時間の増加は、東広島市以外に居住している者の通学時間の大幅な増加によるものである。しかし、東広島市に居住する者の交通時間は減少している。また、レジャーに関しては、東広島市に居住する者の活動時間は大きく増加したが、東広島市以外に居住する者の活動時間は減少している。これは、東広島市以外に居住する者の場合交通時間の増加による影響が大であると考えられる。

次に、変化が小さかった行動について検討してみる。全活動、食事、身のまわりの用事、読書、買物、交際、休養、その他の行動等に費やされた時間の変化は小さかった。特に、生理的に要求される行動である睡眠（24時間－全活動時間）、食事、身のまわりの用事等に関しては、たとえ都市環境が変化した場合でも、しなければならない行動であるため、それらに費やされる時間は大きく変化しないものと考えられる。また、休養も生理的に要求される行動であると考えられる。

5　まとめ

本調査研究で明らかとなった点をまとめると以下のようになる。

(1)生理的に要求される行動は都市環境の変化に大きく影響されない。

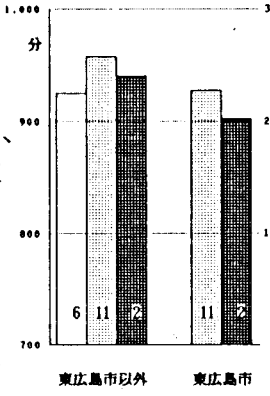
(2)交通時間は都市環境に大きく影響される。

(3)余暇的な行動に費やされる時間は都市環境の変化による影響を受けると同時に、義務的な行動、例えば、学業や交通に費やされる時間にも大きな影響を受けている。

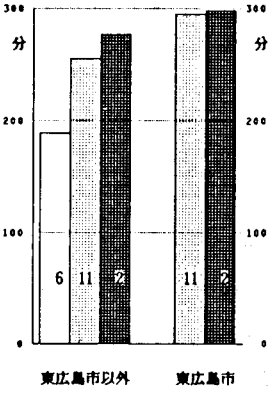
(4)余暇的な行動に費やされる時間は他の行動のものよりかなり小さいので、時間の長短からみた場合全体的には生活行動は都市環境の大きな影響を受けてはいないといえる。

今後、さらに詳細な分析を行なうつもりである。

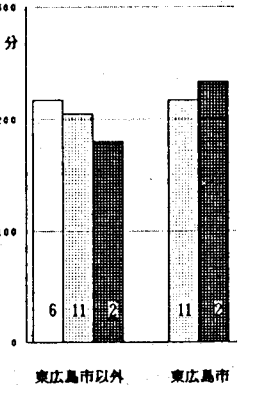
注：現時点では工学部のみが広島市から東広島市へ移転している。



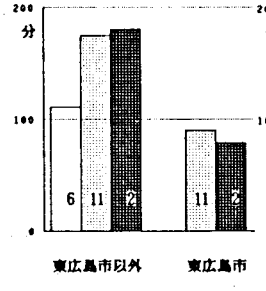
図－2　居住地別全活動時間



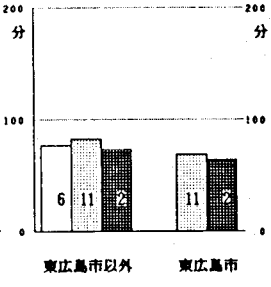
図－3　居住地別学業時間



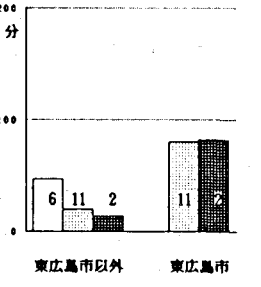
図－4　居住地別休養時間



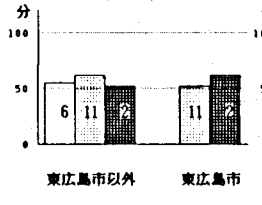
図－5　居住地別交通時間



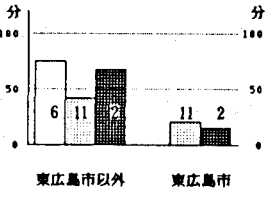
図－6　居住地別食事時間



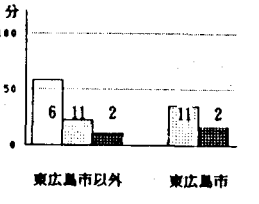
図－7　居住地別レジャー活動時間



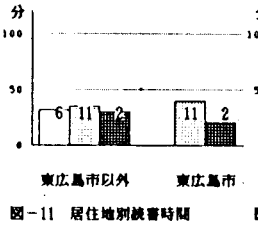
図－8　居住地別身のまわりの用事



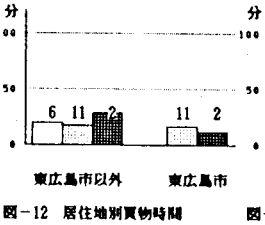
図－9　居住地別アルバイト時間



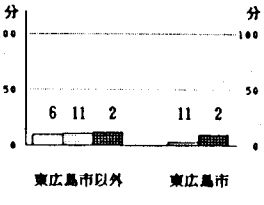
図－10　居住地別サークル活動時間



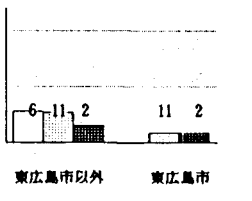
図－11　居住地別読書時間



図－12　居住地別買物時間



図－13　居住地別交際時間



図－14　居住地別その他の行動時間